

わたしたちのビオトープ カワバタモロコを増やす

山口達也・豊田教幹（宝塚市立逆瀬台小学校ビオトープ委員会）

はじめに



わたしたち逆瀬台小学校のビオトープ委員会は、これまでこの地域に住んでいる水辺の生き物を学校ビオトープで育ててきました。ビオトープは直径7m深さ60cmほどの小さいものですが、スイレンやショウブが生え、メダカやモツゴが住んでいます。キリンビール神戸工場と人と自然の博物館から、兵庫県で絶滅が心配されているカワバタモロコを育ててみませんかという申し出があり、面白そうなので取り組むことにしました。

ビオトープ日記

2011年5月25日にキリンビール神戸工場に行き、カワバタモロコ雄20・雌20匹を譲り受け、翌日に、全校生徒の見守るなか40匹のカワバタモロコを放しました。夏には生まれたての小さな魚を見ることができましたが、それがメダカなのかモツゴなのかわたしたちには分かりませんでした。



結果

生まれた魚たちが少し大きくなった秋、10月13日にトラップを30分しかけましたが魚はとれません。網ですくってやっと、モツゴやメダカにまじって一匹のカワバタモロコを見つけることができました。すごくうれしかったです。この時はスイレンがたくさん茂っていて、入りにくかったのかなと思い、スイレンを取り除き11月11日に再挑戦しました。三つのトラップでカワバタモロコを9匹、モツゴを21匹、メダカを11匹、それとカワムツ1匹を採ることができました。

これから

カワバタモロコは私たち逆瀬台小学校の小さなビオトープでは、モツゴやメダカとともに仲よく暮らすのが無理なのかもしれません。今年はモツゴを少し少なくして試してみたいです。カワバタモロコをたくさん増やして、いつか武庫川に返したいです。

